## 令和5年度中学校通級指導教室開設に向けた意向調査結果

#### 1 調査期間

令和5年7月1日から7月31日まで

#### 2 調査対象

小学校通級を利用している6年生児童及び保護者 45名 通常学級に在籍する中学1年生から2年生生徒及び保護者 1,851名 合計1,896名

### 3 調査方法

Web 上のアンケートフォームから回答

#### 4 回答状況

学年		R5	
于十	回答率	回答数	対象者
小学 6 年生	35.5%	16	45
中学 1~2 年	4.1%	78	1,896
合計	4.8%	94	1,941

※前年度回答数37人(57人增)。

在 籍 校	回答人数	在 籍 校	回答人数
江別第一小学校	5	江別第一中学校	9
江別第二小学校	3	江別第二中学校	15
江別太小学校	1	江別第三中学校	13
大麻小学校	2	野幌中学校	13
対雁小学校	1	大麻中学校	8
野幌小学校	1	大麻東中学校	6
大麻東小学校	1	江陽中学校	2
野幌若葉小学校	1	中央中学校	12
いずみ野小学校	1		

・野幌地区寄りの学校に在籍する児童生徒の回答数が 多くなっている。

### 5 中学校通級の希望

(Q)中学校通級が開設された場合、利用したいですか。

学年	利用したい	利用しない
小学 6 年生	11	5
中学1-2年生	19	59
合計	30	64

※前年度「利用したい」と回答した児童生徒数 17 人 (13 人増)。

# 「利用したい」と回答した児童生徒について

【中学校通級を利用したい理由 ※複数回答可】 《小学校6年生》

選 択 肢	回答数
行動面の心配(例:落ち着きがない、こだわりが強いなど)	3
コミュニケーション面の心配(例:人と話すのが苦手、友人とトラブルに	8
なりやすいなど)	
学習面の心配(例:特定の分野(読み書き、計算など)が苦手)	5
困り感や特性を相談する場がほしい	6
困り感や特性に悩みを持つ生徒と交流したい	3
吃音がある、言葉が上手く出ない	0

### 《中学1~2年生》

選 択 肢	回答数
行動面の心配(例:落ち着きがない、こだわりが強いなど)	4
コミュニケーション面の心配(例:人と話すのが苦手、友人とトラブルに	10
なりやすいなど)	
学習面の心配(例:特定の分野(読み書き、計算など)が苦手)	15
困り感や特性を相談する場がほしい	10
困り感や特性に悩みを持つ生徒と交流したい	4
吃音がある、言葉が上手く出ない	4
その他(自由記述):生活全般に課題がある、生活リズムが乱れている	1
その他(自由記述):提出物の期限を守れない、クラスに馴染めず、落ち	1
着かなく、学校へ行けない	

・小学生では「コミュニケーション面」の心配と回答した児童が多くなっており、中学生では「学習面の心配」と回答した生徒が多くなっている。

### 【中学校通級の希望校】

(Q)教育委員会では、開設する学校についても検討しています。どの学校に開設されたら利用できるか選んでください。【複数回答可】(在籍校または進学予定校以外で開設された場合、通学可能な学校も含めて回答してください。)

学 校 名	自校通級	他校通級	合 計
江別第一中学校	5	2	7
江別第二中学校	6	5	11
江別第三中学校	2	3	5
野幌中学校	5	1	6
大麻中学校	2	3	5
大麻東中学校	4	1	5
江陽中学校	1	0	1
中央中学校	4	5	9

<sup>・</sup>江別第二中学校、中央中学校、江別第一中学校の順に希望が多く、校区に小学校通級がある中学校に対してニーズが高い傾向となっている。

# 「利用しない」と回答した児童生徒について

## 【中学校通級を利用しない理由 ※複数回答可】 《小学校6年生》

選 択 肢	回答数
該当する困り感が無い	2
小学校の通級指導教室で課題を克服した	2
部活動との兼ね合い	1
勉強の時間に支障が出る	0
福祉サービス(放課後等デイサービス等)で賄えている	0
すぽっとケア等の登校支援で賄えている	0
通いたい学校の距離が遠く、通う方法が無い	1
学校内での他の人の目が気になる(自校通級)	0
他校に通うことに抵抗感がある(他校通級)	0

## 《中学1~2年生》

選 択 肢	回答数
該当する困り感が無い	49
小学校の通級指導教室で課題を克服した	0
部活動との兼ね合い	7
勉強の時間に支障が出る	З
福祉サービス(放課後等デイサービス等)で賄えている	1
すぽっとケア等の登校支援で賄えている	0
通いたい学校の距離が遠く、通う方法が無い	1
学校内での他の人の目が気になる(自校通級)	6
他校に通うことに抵抗感がある(他校通級)	4

・「該当する困り感が無い」を除くと、小学生では「小学校の通級指導教室で課題を 克服した」が最多であるのに対し、中学生では「部活動との兼ね合い」と回答した生 徒が最多となっている。